

上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

大船山

第 4 号

令和 4 年 5 月 13 日

ホムパ・ジ・ド・ル http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

「親ガチャ」という言葉に対する私の思い

校 長 細江 幸次

話題が少し古くなってしまっていますが、お許しください。昨年度、「親ガチャ」というワードが毎年末に話題となる流行語大賞のベスト10に入っていました。「ガチャ」とはスーパーをはじめ、店舗等に置かれている「ガチャガチャ」を指しており、その言葉の由来を調べてみると、以下のように紹介されています。

親ガチャとは、幼少期に親から虐待を受けて育った経験を持つ若者たちが、自らの生きづらさを周囲の友人たちに語る際に使い始めた言葉であり、それがやがて経済格差へと拡張して用いられるようになったものです。元来は親子関係の運不運を指し示す言葉だったのです。

(宝島社新書『親ガチャという病』より)

もともとは決して笑えない、むしろ悲惨な環境で育った人たちから生まれた言葉だということがわかります。しかし、それが経済格差へと拡張されていく過程で、その悲惨な部分が弱められ、流行語として広まっていったのではないかという印象を私はもっています。このワードに対する議論は多くあるようですが、この場ではもっとポイントを絞って「親ガチャ成功」「親ガチャ失敗」が日常の会話において安易に使われている現状について述べたいと思います。

私が「親ガチャ」というワードを知った親子に関わるある場面では、自分の希望していること(欲しがっているもの)が比較的簡単に叶ったときに「親ガチャ成功」、逆に叶わなかったときに「親ガチャ失敗」と表現していました。つまり、親に何かおねだりをして容易に手に入ったとき、入らなかったときに、これらの言葉を使っていると思われる。「親ガチャ成功」ならラッキー、「親ガチャ失敗」なら自分の親が悪いというような自分本位の見方・考え方が根底にあるような雰囲気も伝わってきます。また、それが安易に使われている面が十分受け取れることから、「何とも他力本願な言い分だ」とばかりに、この言葉を一方的に嫌悪している保護者世代もいるそうです。私は悲痛な叫びさへ感じるこの言葉を全く別次元の世界で安易に使われていることに流行語の落とし穴があると受け止め、言葉の怖さを感じてしまいます。

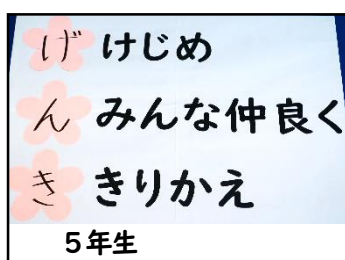
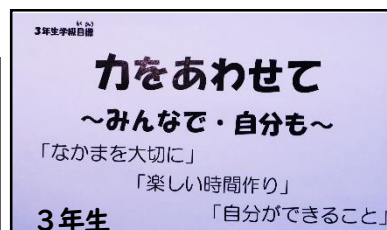
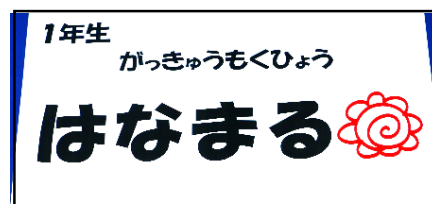
少なくとも上矢作っ子たちには自分に降りかかってくる様々な問題・課題には自分から立ち向かっていく、たくましさがあってほしいと思いますし、仲間と力を合わせて知恵を絞り、乗り越えていくような社会性を養ってほしいと考えています。そして、自分に降りかかってくる問題・課題を苦勞して乗り越えたときに初めて、「一人で生きていくことが自立ではない。一人では生きていけないことを自覚することが自立である(あるお寺で見つけた言葉)」ことを実感として理解できると思うのです。



1年 初めてのiPad

Topic

■各学級目標が決まりました



各学級とも学級目標が決まり、4月23日の授業参観日にお披露目されました。毎日の授業や諸活動、行事でどのように取り組んでいったらいいかを学級で考える際、学級としての取り組み方、自分自身の参加の仕方の足場になっていきます。



■命を守る訓練

4月20日(水)、本年度1回目の訓練を実施しました。避難方法については昨年度の反省より、避難場所の位置やグラウンドでの整列の仕方を変更したことで、より安全に、二次災害も避けられる訓練となりました。緊急放送が入ると全校が一斉に静かになる様子は、日頃の「静けさづくり」の成果がよく表れ、グラウンドに出ていると感動すら覚えます。今後ショート訓練も含め、様々な場合を想定して年間10回程度の命を守る訓練を行い、万が一に備えていきます。



消防署の方のお話を聞く子どもたち

■かけっこ教室

5月12日(木)、4～6年生対象にかけっこ教室を行いました。指導をしていただいたのは、日本人男子初の夏冬オリンピック出場(陸上、ボブスレー)、陸上100mの元日本記録保持者である青戸慎司氏(中京大学陸上部)です。これはスポーツの基本となる「走り」に注目して、すべてのスポーツの競技力向上を目的として実施したものです。この後に実施されるスポーツテストの50m走でどれだけの成果が出るのか、楽しみです。

